

円空が歩いた距離の推測 ——岐阜県飛騨地方の場合——

渡 邊 義 行*

Estimation of the Distance Walked by Enku ——In the case of Hida region in Gifu prefecture——

WATANABE Yoshiyuki

要 約

円空が岐阜県飛騨地方を回国した時の歩いた距離を推測した。円空が岐阜県飛騨地方を訪れたのは、1676年（延宝4年）から1692年（元禄5年）までの17年間であり、訪れた回数は延べ10回を数えた。これを、円空の年齢で表すと47歳から61歳までであり、円空、晩年のことであった。

円空が最も多く歩いたのは、第7回飛騨入りの時であり、1689年（元禄2年）円空58歳の時であった。その年の総歩行推測距離は1,557.1 km/年であった。この年間歩行距離（運動量）は、ヒトが健康を保持するのに十分な運動量であった。

キーワード：円空 歩いた距離 ウォーキング 岐阜県飛騨地方

1. はじめに

遊行僧円空が初めて飛騨に入ったのは、天和（1681年～1684年）説が潰へ、貞享（1684年～1688年）説に固まりかけていた頃だったが、谷口⁵³⁾は、新しく延宝説を提示した。その根拠は、1974年（昭和49年）7月荘川村（現岐阜県高山市荘川町）の金山神社で円空作の神像が発見され、また1975年（昭和50年4月）河合村（現岐阜県飛騨市河合町）で円空仏菩薩像が発見されたこと、さらにその後、飛騨の円空仏の洗い直しによって岐阜県高山市丹生川町下保の千光寺にある八大龍王が延宝年間の円空作の仏像であったことが分かったことなどによる。1674年（延宝2年）と1676年（延宝4年）の円空は美濃、尾張三河地方を歩いていたようなので、これら仏像の製作年代は1676年（延宝4年）ないし1678年（延

宝6年）頃と推定された。このような経緯から谷口⁵³⁾は、円空が最初に飛騨地方へ入ったのは1676年（延宝4年）から1678年（延宝6年）頃と推定した。

1676年（延宝4年）は円空45歳、1678年（延宝6年）は円空47歳の時であり、円空の飛騨地方へ入ったのはかなり遅れてからであった。円空の飛騨地方へ入ったのが遅れた理由について、池之端²⁴⁾は、「飛騨は本願寺・蓮如の影響で、ほとんどの寺院が真宗寺院であった。しかし岐阜県関市下之保の日龍峰寺と岐阜県高山市下保の千光寺は両面宿禰像を有すること及び、両寺とも真言宗の寺であることから、円空は岐阜県飛騨地方に興味を持つようになったのではないか」と言っている。このようなことから、円空は千光寺を拠点としながら、飛騨路を回ることとなる。

一方、池之端²⁴⁾は円空がの飛騨地方へ入ったのは、1681年（延宝9年・元和元年）の夏か秋と考えているようだが、これに賛同する文献は見当たらない。

* 中部大学現代教育学部児童教育学科
中部大学現代教育学研究所

い。1681年（延宝9年・天和元年）から1682年（天和2年）にかけては、円空は関東一円を巡錫中という足跡があることから、むしろこの頃の円空の飛騨地方へ行くのは難しいのではないかと推定される。

次に、円空はどこから飛騨地方へ向ったのか。1676年（延宝4年）の暮れには、円空はおそらく岐阜県郡上市美並町高砂の粥川寺・星宮神社に居たのではないかと推定される。また、1677年（延宝5年）から1678年（延宝6年）にかけては岐阜県関市池尻の弥勒寺を再興したいという円空の思いがあり、その資金集めに苦勞していたという報告³²⁾⁵⁸⁾もある。このようなことから、円空は1676年（延宝4年）の暮れから1677年（延宝5年）、1678年（延宝6年）にかけては粥川寺・星宮神社かの弥勒寺辺りに居たのではないかと推定される。

2. 研究の目的

本研究の目的は、円空（1632年（寛永9年）誕生、1695年（元禄8年）没）が岐阜県飛騨地方の神社・寺院・個人宅を訪れた足跡を辿り、その歩行距離を推測することであった。その動機は、渡邊⁶⁰⁾が2009年（平成21年）に、「江戸時代僧侶の行脚距離に関する研究—白隠和尚が歩いた距離—」と題した

報告⁶⁰⁾を行ったが、その折の動機は全く同一とするもので、すなわち、科学技術がほとんどなかった江戸時代の人々にとって、日常生活をするのに消費した運動量はどの程度のものであったかを知らうとしたからである。その次の例として、本報では円空の足跡を追い、その歩行距離を推測しようとしたのである。

3. 歩行距離の推測方法

歩行した距離の推測は、インターネット『goo 地図』と自家用車の距離メーター及びカーナビによる走行距離を利用して行った。

なお、本報での円空が訪れた神社・寺院名は、訪問した年が明記されている報告のみを取り上げた。したがって、例えば、「延宝2～3年頃」とか、「延宝前期頃」と言った訪問年に幅がある場合は取り上げなかった。

4. 歩行距離の推測結果

(1) 初の飛騨地方へ入った（1676年（延宝4年）） 円空 45歳～1678年（延宝6年）円空 47歳 の歩行距離の推測結果

円空が初めて飛騨地方へ入ったのは、表1のような足跡を辿ったものと推測した。粥川寺・星宮神社

表1 円空第1回飛騨の足跡 1676年（延宝4年）45歳～1678年（延宝6年）47歳

神社・寺院、個人宅	像の所在場所	距離(km)
粥川寺・星宮神社	岐阜県郡上市美並町高砂を発つ	0.0
県道315号線→国道156号線→県道323号線→県道63号線 →県道85号線→放生峠→県道85号線		
白山神社	岐阜県下呂市金山町下原町	45.8
国道256号線→国道41号線		
千光寺	岐阜県高山市丹生川町下保	85.8
国道41号線→国道471号線→国道360号線		
下梶谷喜代造	岐阜県飛騨市川合町元田	36.6
国道360号線→国道156号線		
金山神社	岐阜県高山市荘川町野々俣	56.6
国道41号線→国道256号線→県道85号線→放生峠→県道85号線 →県道63号線→県道323号線→県道315号線		
粥川寺・星宮神社	岐阜県郡上市美並町高砂に帰る	168.6
総 計		393.4

を出発する。県道 315 号線→国道 156 号線→県道 323 号線→大峠→県道 63 号線→県道 85 号線→放生峠→県道 85 号線→下呂市金山町下原の白山神社⁵³⁾へ行く。次いで国道 256 号線→国道 41 号線を経て、千光寺⁵³⁾へ行く。その後、国道 41 号線→国道 471 号線→国道 360 号線で、飛騨市河合町元田の下梶谷喜代造宅⁵³⁾に寄り、国道 360 号線→国道 156 号線で、高山市荘川町野々俣の金山神社⁵³⁾へ行く。復路は往路と同じ経路を経て粥川寺・星宮神社に帰ったものと推測した。

円空がある場所を出発し、そして訪れた神社・寺院・個人宅までの推測距離は、表 1～表 10 に記した。

円空が第 1 回の飛騨地方へ入ったのは、粥川寺・星宮神社を出発してから粥川寺・星宮神社へ帰るまでの総歩行推測距離は 393.4 km であった。

(2) 2 回の飛騨地方へ入った（1684 年（天和 4 年・貞享元年））円空 53 歳の歩行距離の推測結果

1684 年（天和 4 年・貞享元年）円空は、粥川寺・星宮神社を出発し、国道 156 号線→国道 22 号線→愛知県名古屋市市内に入り、名古屋市中川区荒子町の荒子観音寺を訪れ、「天台円頓菩薩戒師質相承血脈」を受けた⁶⁾⁸⁾¹⁵⁾²⁰⁾²¹⁾⁴⁰⁾⁴⁸⁾⁵⁹⁾。その後、円空は岐阜県関市洞戸の高賀神社に滞在する⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾¹⁴⁾¹⁵⁾¹⁷⁾²⁰⁾³⁴⁾⁵⁴⁾⁵⁷⁾。この年の 12 月吉日関市上之保鳥屋市の不動堂で作仏して

いる²⁶⁾³¹⁾³²⁾³⁴⁾³⁸⁾⁴⁴⁾⁵³⁾。次いで、高山市清見町上小鳥 弘誓寺に行き³⁴⁾、12 月 25 日には国道 158 号線→国道 156 号線→国道 22 号線を経て愛知県名古屋市熱田区神宮の熱田神宮に行き、「読経口伝明鏡集」を书写する⁹⁾¹⁸⁾²⁰⁾²⁸⁾³⁵⁾³⁸⁾⁴⁸⁾。この年の暮れには粥川寺・星宮神社に帰り、越年したのではないかと推測する。

以上のように、1684 年（天和 4 年・貞享元年）の円空は、第 2 回の飛騨地方へ入った足跡が表 2 のように残されている。訪問した各場所間の総歩行距離は 546.3 km であった。

(3) 第 3 回の飛騨地方へ入った（1685 年（貞享 2 年））円空 54 歳の歩行距離の推測結果

1685 年（貞享 2 年）の円空は、粥川寺・星宮神社で越年したと推測した。円空は粥川寺・星宮神社から第 3 回の飛騨地方へ入ったのは関市上之保経由で行っている。この年 5 月吉日に円空は千光寺に留まり、千光寺住職舜乗と意気投合し、深い交わりを行う³⁾⁸⁾⁹⁾¹³⁾¹⁵⁾²⁰⁾²⁴⁾³²⁾⁴⁰⁾⁵⁴⁾⁴⁹⁾⁵³⁾⁵⁵⁾⁵⁷⁾。やがて円空は高山市内を訪問する。まず高山市丹生川町日面の両面窟（出羽の窟）³²⁾を訪ね、次いで高山市天性寺町の素玄寺（飛騨 33 観音霊場第 4 番札所）³²⁾から高山市桜町の相応院（飛騨 33 観音霊場第 2 番札所）³²⁾へと行き、12 月 8 日には、高山市丹生川町折敷地の長寿寺³²⁾に行く。12 月 25 日円空は再び美濃に戻り、弥勒寺に帰る²⁷⁾³²⁾⁴⁸⁾。

表 2 円空第 2 回飛騨の足跡 1684 年（天和 4 年・貞享元年）53 歳

神社・寺院、個人宅	像の所在場所	距離 (km)
粥川寺・星宮神社	岐阜県郡上市美並町高砂を發つ	0.0
国道156号線→国道22号線→名古屋市内		
荒子観音寺	愛知県名古屋市中川区荒子町	76.9
国道22号線→256号線→関市洞戸高賀		
高賀神社	岐阜県関市洞戸高賀	72.5
12月吉日 不動堂	岐阜県関市上之保鳥屋市	53.9
弘誓寺	岐阜県高山市清見町上小鳥	105.7
国道158号線→国道156号線→国道22号線→名古屋市内		
12月25日 熱田神宮	名古屋市熱田区神宮	158.9
名古屋市内→国道22号線→国道156号線→郡上市		
粥川寺・星宮神社	郡上市美並町高砂に帰る	78.4
総 計		546.3

表3 円空第3回飛驒の足跡 1685年（貞享2年）54歳

神社・寺院、個人宅	像の所在場所	距離 (km)
粥川寺・星宮神社	岐阜県郡上市美並町高砂を発つ	0.0
関市上之保 放生峠を經由		30.6
5月吉日 千光寺	岐阜県高山市丹生川町下保	88.2
両面窟（出羽の窟）	岐阜県高山市丹生川町日面	15.7
素玄寺（飛驒33観音霊場・第4番札所）	岐阜県高山市天性寺町	16.6
相応院（飛驒33観音霊場・第2番札所）	岐阜県高山市桜町	1.4
12月8日 長寿寺	岐阜県高山市丹生川町折敷地	15.0
関市上之保 放生峠を經由		90.4
12月25日 弥勒寺	岐阜県関市池尻に帰る	42.1
総 計		300.0

表3に、以上の円空の動きをまとめ、同時に円空の歩行距離も示した。1685年（貞享2年）に円空が歩いた総歩行距離は300.0 kmであった。

(4) 第4回の飛驒地方へ入った（1686年（貞享3年））円空55歳の歩行距離の推測結果

円空、第4回の飛驒地方へ入ったのは1686年（貞享3年）であった。弥勒寺で越年したと思われる円空は、1月17日岐阜県羽島市竹鼻町狐穴の稲荷神社に足跡を残す⁽⁶⁾⁽⁸⁾⁽⁹⁾⁽¹⁵⁾⁽³⁴⁾⁽³⁵⁾⁽⁴⁹⁾⁽⁵⁴⁾。そこから岐阜市大宮町の円空美術館⁽³⁴⁾に向い、岐阜市山県北野の大智寺⁽³⁴⁾に居た。ここから飛驒地方に向い、3月高山市丹生川町板殿の厨子牛丸家⁽⁶⁾⁽⁸⁾⁽⁹⁾⁽¹⁵⁾⁽³⁴⁾⁽³⁵⁾⁽⁴⁹⁾⁽⁵³⁾⁽⁵⁹⁾に行く。5月吉日に円空は千光寺⁽²⁴⁾⁽³²⁾⁽³⁴⁾⁽⁵⁵⁾に居た。続いて6月吉日に高山市丹生川町板殿の薬師堂⁽⁶⁾⁽⁸⁾⁽⁹⁾⁽¹⁵⁾⁽³⁴⁾⁽³⁵⁾⁽³⁶⁾⁽⁴⁹⁾⁽⁵³⁾⁽⁵⁹⁾に行き、そこから長野県に向う。6月木曽郡木曽町三岳（黒沢）の大泉寺⁽³⁸⁾⁽⁵⁹⁾に現れ、6月25日南木曽町読書の等覚寺⁽⁶⁾⁽⁸⁾⁽⁹⁾⁽¹³⁾⁽¹⁵⁾⁽²⁰⁾⁽³²⁾⁽³⁴⁾⁽³⁵⁾⁽³⁶⁾⁽⁴⁹⁾⁽⁵³⁾に、8月12日まで⁽⁶⁾⁽⁸⁾⁽⁹⁾⁽¹⁵⁾⁽²⁰⁾⁽³⁵⁾⁽³⁶⁾⁽³⁸⁾⁽⁴⁹⁾⁽⁵³⁾⁽⁵⁹⁾留まる。続いて、木曽郡南木曽町読書沼田の楯守神社⁽¹³⁾⁽³⁶⁾⁽⁴⁵⁾に行き、中津川市馬籠の永昌寺⁽¹³⁾⁽³⁶⁾⁽³⁸⁾を経て、11月頃、粥川寺・星宮神社⁽³⁷⁾に帰っている。

一方、この年の11月20日に西神頭家安永が73歳で亡くなっている⁽⁴⁾⁽²²⁾⁽³⁷⁾。したがって、円空は西神頭安永の死には会えたことであろう。

表4に、1686年（貞享3年）円空の足跡を示した。この年の円空の総歩行距離は415.1 kmであった。

この年、円空は粥川寺・星宮神社において越年し

たものと推測した。

(5) 第5回の飛驒地方へ入った（1687年（貞享4年））円空56歳の歩行距離の推測結果

1687年（貞享4年）円空は、第5回の飛驒地方へ入っている。粥川寺・星宮神社で越年した円空は、再び飛驒地方に向う。放生峠を経て、高山市若達町の雲龍寺（飛驒33観音霊場第33番札所）に居た⁽⁴⁶⁾。

以下は、若原⁽⁵⁹⁾の報告にしたがって円空の足跡を辿ることとする。高山市にいた円空は、国道361号線→県道20号線を経て、長野県木曽郡木曽町福島に現れ、次いで駒ヶ岳（海拔2956m）に登る。現在、駒ヶ岳に登るには、権兵衛峠を越えて駒ヶ根市に行き、「しらび平」からロープウェイに乗って山頂を目指すことになる。しかし円空の時代には徒歩で駒ヶ岳に登った。本報では、ロープウェイを利用という現代の登攀手段と経路で表すこととした。駒ヶ岳登攀後、愛知県奥三河に向い、次いで富士山（海拔3776m）に登頂し、山梨県富士吉田口経路で下山している。この年は木曽福島辺りで越年したものと推測した。

このような足跡を辿った経緯を、表5にまとめた。この年の総歩行距離は664.9 kmであった。

(6) 第6回の飛驒地方へ入った（1688年（貞享5年・元禄元年））円空57歳の歩行距離推測結果

1688年（貞享5年・元禄元年）の円空は、第6回

円空が歩いた距離の推測

表4 円空第4回飛驒の足跡 1686年（貞享3年）55歳

神社・寺院、個人宅	像の所在場所	距離 (km)
弥勒寺	岐阜県関市池尻を発つ	0.0
1月17日 稲荷神社	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴	32.1
円空美術館	岐阜県岐阜市大宮町	16.3
大智寺	岐阜県岐阜市山県北野	14.1
国道418号線→国道248号線→国道41号線→高山市内で158号線		
3月 厨子 牛丸家	岐阜県高山市丹生川町板殿	90.9
5月吉日 千光寺	岐阜県高山市丹生川町下保	17.0
6月吉日 薬師堂	岐阜県高山市丹生川町板殿	17.0
国道158号線→国道361号線→県道20号線		
6月 大泉寺	長野県木曽郡木曽町三岳	82.3
国道19号線を經由		
6月25日 等覚寺	長野県木曽郡南木曽町読書	42.1
8月12日 等覚寺	長野県木曽郡南木曽町読書	0.0
楯守神社	長野県木曽郡南木曽町沼田	38.1
永昌寺	岐阜県中津川市馬籠	13.1
国道19号線→県道65号線→国道21号線→国道418号線→国道156号線		11.6
粥川寺・星宮神社	岐阜県郡上市美並町高砂に帰る	40.5
総 計		415.1

の飛驒地方へ向った。春か夏に円空は千光寺に足跡を残す²⁴⁾。また7月頃、高山市江名子町の錦山神社に居た⁴⁷⁾。おそらくこの年の円空は千光寺で越年したのではないかと推測する。表6にその足跡をまとめた。この年の総歩行距離は95.6kmと少なかった。

(7) 第7回の飛驒地方へ入った（1689年（元禄2年）円空58歳の歩行距離推測結果

1689年（元禄2年）の円空は、千光寺で越年したと推測した。この年の1月7日に円空は、高山市から北上し、富山県に入り、婦負郡細入村舟渡に居た。その根拠は、1月7日付けで「定本円空上人歌集整理番号302」に記録が残っている²⁹⁾。3月7日には滋賀県米原市加勢野の光明院に居り¹¹⁾、同日米原市春照の太平寺・中之坊に足跡を残している⁵⁾⁷⁾⁸⁾⁹⁾¹¹⁾¹³⁾¹⁵⁾¹⁷⁾²⁰⁾³¹⁾³²⁾³⁴⁾³⁵⁾³⁸⁾³⁹⁾⁴⁵⁾⁴⁹⁾⁵¹⁾⁵³⁾⁵⁵⁾⁵⁸⁾。次いで、国道365号線→国道21号線を経て、中山道に入り、国道19号線→国道142号線→埼玉県春日部市に入る。4月17日埼玉県春日部市小渕の小渕観音院に居

る³⁴⁾³⁸⁾⁵³⁾。国道4号線→国道16号線→国道122号線を経て、6月さいたま市見沼区島町の薬王寺に行き³⁴⁾³⁸⁾、さいたま市見沼区中野の正法院に居る¹⁷⁾³⁴⁾³⁸⁾⁵³⁾。また、6月に国道4号線→県道18号線→国道121号線→国道119号線で栃木県へ移動し、6月24日日光市松原町の明覚院⁷⁾¹⁷⁾³⁰⁾³²⁾³⁴⁾³⁵⁾³⁸⁾⁴⁵⁾⁴⁹⁾⁵¹⁾⁵³⁾⁵⁵⁾と日光市清滝の清滝寺³⁰⁾³²⁾³⁴⁾³⁸⁾に居たという報告がある。ここから、甲州街道、中山道を一気に西進し、国道477号線→国道8号線→国道21号線を経て、8月9日には、滋賀県大津市に現れる。そして、滋賀県大津市園城寺町の園城寺で尊栄から「授決集最秘師資相承血脈」を受け⁶⁾⁸⁾⁹⁾¹¹⁾¹²⁾¹⁵⁾¹⁷⁾²⁰⁾²¹⁾³²⁾³⁴⁾³⁵⁾³⁸⁾³⁹⁾⁴⁰⁾⁴⁹⁾⁵¹⁾⁵³⁾⁵⁴⁾⁵⁵⁾⁵⁸⁾⁵⁹⁾、自坊弥勒寺が園城寺の末寺になる⁹⁾¹⁵⁾³⁴⁾³⁸⁾⁴⁰⁾⁴⁹⁾⁵⁴⁾。秋頃、岐阜県大垣市綾野町の報恩寺に行く¹³⁾¹⁶⁾³⁴⁾⁵³⁾⁵⁸⁾。秋、弥勒寺に草庵を作り、住職となっている⁵⁾¹⁷⁾³²⁾³⁴⁾³⁸⁾⁴⁶⁾。

1689年（元禄2年）円空の足跡は、表7に示した通りである。総歩行距離は1,557.1kmと多かった。

表5 円空第5回飛騨の足跡 1687年（貞享4年）56歳

神社・寺院、個人宅	像の所在場所	距離（km）
粥川寺・星宮神社	岐阜県郡上市美並町高砂を発つ	0.0
関市上之保	放生峠を經由	30.6
雲龍寺（飛騨33観音霊場第33番札所）	岐阜県高山市若達町	104.2
国道361号線→県道20号線		
木曽福島町役場	長野県木曽郡木曽町福島	77.5
国道19号線→国道361号線→県道202号線→県道146号線→国道153号線		
駒ヶ根市役場	長野県駒ヶ根市赤須町	45.9
しらび平駅		16.3
ロープウェイ→駒ヶ岳（海拔2956 m）登頂→ロープウェイ		
しらび平駅		16.3
駒ヶ根市役場	長野県駒ヶ根市赤須町	
国道153号線→国道151号線		
奥三河（設楽町総合センター）	愛知県北設楽郡設楽町居立	50.2
県道3号線→国道151号線→国道257号線を経て		
富士山本宮浅間大社	静岡県富士宮市宮町	172.0
富士山登山道→富士山（海拔3776 m）頂上（奥宮）→富士山下山道		
北口本宮富士浅間神社	山梨県富士吉田市上吉田	
県道31号線→国道20号線		
木曽福島町役場辺りか？	長野県木曽郡木曽町福島 ここら辺りで、越年したか（推測）？	168.2
総 計		664.9

表6 円空第6回飛騨の足跡 1688年（貞享5年・元禄元年）57歳

神社・寺院、個人宅	像の所在場所	距離（km）
木曽福島町役場辺りか？	長野県木曽郡木曽町福島 ここら辺りで、越年したか（推測）？	0.0
飛騨に向う 国道361号線→県道462号線→国道158号線		
春か夏、千光寺	岐阜県高山市丹生川町下保	84.9
7月以後頃 錦山神社	岐阜県高山市江名子町	10.7
千光寺	岐阜県高山市下保 で越年したか （推測）？	
総 計		95.6

(8) 第8回の飛騨地方へ入った（1690年（元禄3年）円空59歳の歩行距離の推測結果

弥勒寺で越年したと推測した円空は、再び飛騨地方への旅にでる。今では通い慣れた放生峠を越え、高山市神明町の神明神社に着く³⁴⁾。夏頃、高山市国府町の清峯寺²⁰⁾³²⁾で彫像した後、富山市旧細入村に入り、富山市加賀沢の白山神社¹⁴⁾³²⁾と富山市猪谷の

猪谷関所館⁸⁾⁹⁾⁵⁹⁾一帯で仏像を彫る。再び岐阜県に戻り、飛騨市神岡町東茂住の金龍寺（飛騨33観音霊場・第21番札所）⁵⁸⁾と、飛騨市神岡町小菅の東白山神社⁵⁸⁾に寄る。その後、高山市上宝町金木戸の観音堂にて降雨・止雨の修法を行う⁷⁾¹⁰⁾¹⁴⁾¹⁵⁾³¹⁾³²⁾³⁹⁾⁴¹⁾⁴⁵⁾⁵⁰⁾⁵²⁾⁵³⁾⁵⁴⁾⁵⁶⁾。また、高山市上宝町蔵柱の田谷神社¹⁴⁾⁵⁶⁾に寄る。9月26日高山市上宝町長倉の桂峯寺（飛騨33

円空が歩いた距離の推測

表7 円空第7回飛騨の足跡 1689年（元禄2年）58歳

神社・寺院、個人宅	像の所在場所	距離（km）
千光寺	岐阜県高山市下保 で越年したか（推測）？	0.0
国道41号線→県道75号線→国道41号線→県道188号線		
1月7日 富山県富山市婦負郡細入村舟渡		64.6
県道188号線→国道41号線→県道75号線→国道41号線→国道472号線 →国道156号線→21号線→365号線		
3月7日 光明院	滋賀県米原市加勢野	242.5
3月7日 太平寺	滋賀県米原市春照	6.7
国道365号線→国道21号線→を経て、中山道に入り、 国道19号線→国道142号線→埼玉県春日部市に入る		
4月17日 小渕観音院	埼玉県春日部市小渕	451.7
国道4号線→国道16号線→国道122号線		
6月 薬王寺	埼玉県さいたま市見沼区島町	12.9
正法院	埼玉県さいたま市見沼区中野	6.1
国道4号線→県道18号線→国道121号線→国道119号線		
6月 明覚院	栃木県日光市松原町	113.7
国道119号線→国道120号線		
清滝寺	栃木県日光市清滝	6.6
国道122号線→国道18号線→国道142号線 国道19号線→国道21号線→国道8号線を経て		
8月9日 園城寺	滋賀県大津市園城寺町	515.9
国道477号線→国道8号線→国道21号線		
秋頃、報恩寺	岐阜県大垣市綾野町	94.5
秋、弥勒寺	岐阜県関市池尻 弥勒寺住職となる 弥勒寺で越年したか（推測）？	41.9
総 計		1557.1

観音霊場・第28番札所）に錫留し、10万体的の仏像を彫り終える⁶⁾⁸⁾⁹⁾¹⁴⁾²⁰⁾³²⁾³⁴⁾³⁹⁾⁴⁹⁾⁵⁰⁾⁵¹⁾⁵³⁾⁵⁴⁾。また、奥飛騨温泉郷一重ヶ根の禅通寺（飛騨33観音霊場・第29番札所⁵⁸⁾⁵⁹⁾）に行く。この年の暮れ、高山市奥飛騨温泉郷平湯⁵³⁾で体を休める。高山市経由で弥勒寺に帰り、越年したと推測した。

以上、1690年（元禄3年）円空の足跡を表8にまとめた。この年に円空が歩いた総歩行距離は391.4kmであった。

(9) 第9回の飛騨地方へ入った（1691年（元禄4年））円空60歳の歩行距離の推測結果

1691年（元禄4年）1月吉日に円空は愛知県名古屋市中熱田区神宮の熱田神宮にて歌を詠んだ記録を残す¹⁵⁾²⁸⁾³⁴⁾⁴⁸⁾⁵⁹⁾。続いて岐阜県下呂市付近で仏像を残

す。まず、4月20日下呂市金山町祖師野の薬師堂に居り⁸⁾¹⁵⁾³⁴⁾⁵³⁾、飛騨川に沿って上り、高山市内に入る。下呂市金山町菅田桐洞の和田薬師堂⁸⁾⁹⁾¹⁵⁾³⁴⁾⁵³⁾、下呂市金山町金山の長福寺⁵³⁾、金山町福来の権現社⁵³⁾、4月22日に下呂市小川の今井満雄宅⁸⁾¹⁴⁾¹⁵⁾²³⁾³⁴⁾³⁹⁾³⁵⁾⁵³⁾⁵⁵⁾、下呂市小川の今井省二宅³³⁾、下呂市湯之島の温泉寺²³⁾、下呂市萩原宮田の藤ヶ森観音堂³²⁾、下呂市萩原上呂の久津八幡宮³²⁾³⁸⁾⁵³⁾、下呂市小坂町坂下の神明神社⁵³⁾、下呂市小坂町落合の富士神社（小坂郷土館）⁵³⁾、下呂市小坂町湯屋の富士神社⁵³⁾、下呂市小坂町長瀬の長瀬神社⁵³⁾を訪れた。

続いて、5月8日高山市内に入り、3か所に足跡を残す。高山市朝日町万石の八幡神社³⁸⁾、高山市朝日町大廣の子安観音堂³²⁾、高山市朝日町青屋の神明神社¹⁴⁾である。

表8 円空第8回飛騨の足跡 1690年（元禄3年）59歳

神社・寺院、個人宅	像の所在場所	距離 (km)
弥勒寺	岐阜県関市池尻 で越年したか（推測）？	0.0
関市上之保 放生峠を經由		
神明神社	岐阜県高山市神明町	135.1
夏頃、清峯寺	岐阜県高山市国府町鶴巣	15.6
白山神社	富山県富山市加賀沢	40.7
猪谷関所館	富山県富山市猪谷	9.0
金龍寺（飛騨33観音霊場・第21番札所）	岐阜県飛騨市神岡町東茂住	10.1
東白山神社	岐阜県飛騨市神岡町小萱	18.1
観音堂	岐阜県高山市上宝町金木戸	16.7
田谷神社	岐阜県高山市上宝町蔵柱	16.6
9月26日 桂峯寺（飛騨33観音霊場・第28番札所）	岐阜県高山市上宝町長倉	11.9
禅通寺（飛騨33観音霊場・第29番札所）	岐阜県奥飛騨温泉郷一重ヶ根	13.4
長期滞在し、10万体目の仏像を作り終わる		
岐阜県高山市奥飛騨温泉郷平湯→高山市經由		
弥勒寺	岐阜県関市池尻 で越年したか（推測）？	140.2
総 計		391.4

帰路は、美濃加茂市と各務原市を經由して関市に戻っている。訪れた神社・寺院は、美濃加茂市太田町北町の井ノ上観音堂³⁴⁾³⁸⁾⁵³⁾、各務原市各務西町の金山寺⁵³⁾、関市中之保多々羅の多々羅観音堂³⁴⁾⁴⁵⁾⁵³⁾、関市広見の白山神社⁴⁵⁾である。この年の最後は弥勒寺に帰り、越年したものと推測する。

1691年（元禄4年）円空の総歩行距離は表9に示したように、474.3kmであった。

(10) 第10回の飛騨へ入った（1692年（元禄5年）円空61歳の歩行距離の推測結果

1692年（元禄5年）弥勒寺で越年した円空は、4月11日岐阜県関市洞戸高賀の高賀神社で雨乞い修法を行った⁶⁾⁸⁾⁹⁾¹⁵⁾¹⁶⁾²⁰⁾³²⁾³⁴⁾³⁵⁾³⁹⁾⁴⁰⁾⁴¹⁾⁴³⁾⁵¹⁾⁵³⁾⁵⁴⁾⁵⁸⁾⁵⁹⁾。関市洞戸高賀の高賀神社蔵の大般若経内の紙片に「元禄5年仁申5月吉日」と書いた紙片が見つかる⁵⁾¹⁵⁾³⁴⁾³⁹⁾⁴⁵⁾⁵⁴⁾。次いで、関市洞戸高賀の蓮華峰寺に足跡を残す³⁴⁾⁵³⁾。この蓮華峰寺は当時、高賀神社の境内にあった寺院で、大日寺とも呼ばれていた。高賀神社と蓮華峰寺を合わせて西高賀山蓮華峰寺と称していた。弥勒寺に戻り、以後、円空は造詣活動を中止⁸⁾し、3年後

に入定することを決意する⁸⁾⁹⁾³⁴⁾⁵⁸⁾。そのため、今から「千日行」に入ることとした⁹⁾⁵⁸⁾⁵⁹⁾という報告がある。

しかし一方では、再び飛騨へ行ったという報告もある。すなわち、高山市国府町半田の渡辺秋三宅に18日間逗留し、仏像を彫ったとしたものである³³⁾⁴⁹⁾。もしこの飛騨地方へ入ったことを認めると、円空は第10回の飛騨地方へ入ったこととなろう。飛騨地方からの帰路には、次の所に寄ったらしい。下呂市萩原町宮田の藤ヶ森観音堂³³⁾、下呂市萩原町奥田洞の八幡神社³³⁾、下呂市萩原町奥田洞の大日堂³³⁾の記録がある。

1692年（元禄5年）円空は、弥勒寺に戻る。この年の円空総歩行距離は、表10に示したように352.6kmであった。

5. 議論

(1) 円空入定

1695年（元禄8年）7月13日円空は、弟子の円長に「授決集秘師質相承血脈」を与

円空が歩いた距離の推測

表9 円空第9回飛騨の足跡 1691年（元禄4年）60歳

神社・寺院、個人蔵	像の所在場所	距離（km）
弥勒寺	岐阜県関市池尻 で越年したか（推測）？	0.0
1月吉日 熱田神宮	愛知県名古屋市熱田区神宮 にて歌を詠む	47.1
弥勒寺	岐阜県関市池尻	47.1
	岐阜県下呂市付近で仏像を作る	
4月20日 薬師堂	岐阜県下呂市金山町祖師野	49.4
和田薬師堂	岐阜県下呂市金山町菅田桐洞	15.6
長福寺	岐阜県下呂市金山町金山	7.1
権現社	岐阜県下呂市金山町福来	4.3
4月22日 今井満雄	岐阜県下呂市小川	23.6
今井省二	岐阜県下呂市小川	0.0
温泉寺	岐阜県下呂市湯之島	3.2
藤ヶ森観音堂	岐阜県下呂市萩原宮田	17.7
久津八幡宮	岐阜県下呂市萩原上呂	7.3
神明神社	岐阜県下呂市小坂町坂下	9.7
富士神社（小坂郷土館）	岐阜県下呂市小坂町落合	7.9
富士神社	岐阜県下呂市小坂町湯屋	0.8
長瀬神社	岐阜県下呂市小坂町長瀬	6.1
5月8日 八幡神社	岐阜県高山市朝日町万石	26.5
子安観音堂	岐阜県高山市朝日町大廣	2.9
神明神社	岐阜県高山市朝日町青屋	3.8
井ノ上観音堂	岐阜県美濃加茂市太田町北町	116.3
金山寺	岐阜県各務原市各務西町	15.9
多々羅観音堂	岐阜県関市中之保多々羅	33.1
白山神社	岐阜県関市広見	26.9
弥勒寺	岐阜県関市池尻 で越年したか（推測）？	2.0
総 計		474.3

え⁶⁾⁸⁾⁹⁾¹⁴⁾¹⁵⁾²⁰⁾³²⁾³⁴⁾³⁵⁾³⁹⁾⁴⁰⁾⁵¹⁾⁵⁵⁾⁵⁸⁾、7月15日の盂蘭盆に岐阜県関市池尻の長良川河畔で入定した⁶⁾⁸⁾⁹⁾¹⁴⁾¹⁵⁾¹⁹⁾²⁰⁾³²⁾³⁴⁾³⁵⁾³⁹⁾⁴⁹⁾⁵¹⁾⁵⁴⁾⁵⁵⁾⁵⁷⁾⁵⁸⁾⁵⁹⁾。円空、64歳の生涯であった。

その後、弟子が弥勒寺境内に墓を建て⁵³⁾、自然石を用いた墓石には「ユ當寺興園空上人 元禄八乙亥天七月十五日（花押）」と彫り入れた¹⁴⁾⁵³⁾。

(2) 円空が飛騨地方へ歩いた年間歩行距離

以上の結果から、円空が飛騨地方を訪れた回数は、延べ10回を数え、期間では1676年（延宝4年）～1692年（元禄5年）まで、年齢47歳～61歳までの

17年間であった。その17年間の間に円空が歩いた総歩行距離/年は、図1に示した通りである。最も多い年間総歩行距離は、第7回飛騨地方へ入った時点で、1,557.1 kmであった。次いで、第5回664.9 km、第2回546.3 kmであった。最も少なかった年間総歩行距離は第6回の時で、95.6 kmであった。

2010年（平成22年）渡邊⁶¹⁾は、岐阜県郡上市美並町の場合を対象に、円空が歩いた距離を推測している。最も多く歩いたと推測されたのは、1679年（延宝7年）の時で、479.5 kmであったと報告した。この報告における円空の行動範囲は郡上市美並町内と限定された地域であったので、比較的歩行距離は

表10 円空第10回飛騨の足跡 1692年（元禄5年）61歳

神社・寺院、個人蔵	像の所在場所	距離 (km)
弥勒寺	岐阜県関市池尻 で越年したか（推測）？	0.0
4月11日 高賀神社	岐阜県関市洞戸高賀 にて雨乞い修法を行う	29.3
5月吉日 高賀神社	岐阜県関市洞戸高賀 にて高賀神社蔵紙片の大般若経内に「元禄5年仁申暦5月吉日」と書いた紙片が見つかる	0.0
蓮華峰寺	岐阜県関市洞戸高賀	4.0
弥勒寺	岐阜県関市池尻	25.5
以後、円空は造詣活動を中止する		
以後、円空は3年後の入定を決意する		
以後、円空は「千日行」に入る		
再び、円空は飛騨へ行き、渡辺家に18日間逗留する		
渡辺秋三家	岐阜県高山市府府町半田	146.9
飛騨からの帰路に、次の所に立ち寄ったか？		
藤ヶ森観音堂	岐阜県下呂市萩原町宮田	46.4
八幡神社	岐阜県下呂市萩原町奥田洞	2.0
大日堂	岐阜県下呂市萩原町奥田洞	0.0
弥勒寺	岐阜県関市池尻 に帰るか（推測）？	98.5
総 計		352.6

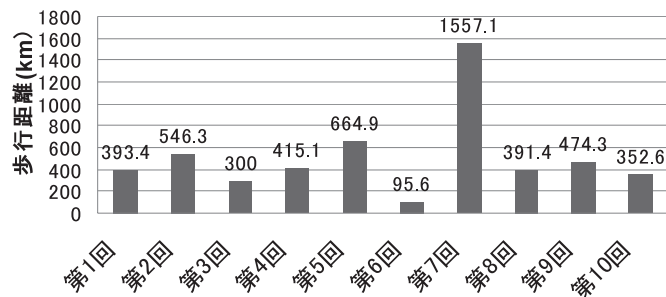


図1 円空が飛騨地方を歩いた年間の総歩行距離

少なく推測された。それに較べて、本報における円空の行動範囲は飛騨地方への出入りということもあり、行動範囲が広がったことによって、歩行距離の推測値は大きくなっている。

また、郡上市美並町を訪れた円空の年齢は、31歳～55歳までの比較的若い時代であった⁶¹⁾。しかし円空が飛騨地方を訪れた時の年齢は47歳～61歳までの晩年期間であった。すなわち、円空が入定する直前まで日本中を回国し歩いていたのである。このようなことから、円空は生涯に渡って回国し、歩き続けた健脚者であったと言えよう。

(3) 江戸時代の人々の歩行運動量と円空について
江戸時代の人々の生活状態について、石川²⁵⁾は広

範囲に資料を集め、その実情についてまとめを行っている。その中で、21世紀に暮す日本人は125,000 kcal/日/人のエネルギーを消費しながら生きており、そのうち100,000 kcalは化石燃料で賄っている。それに対して、江戸時代の人々は0 kcalの暮らしであった。すなわち江戸時代の人々は、すべてに渡って太陽エネルギーを消費した暮らしをしていた。具体的には、生活のすべてを人手だけで処理し、どこへ行くにも、何をするにもすべて人の力で行っていた。そのお蔭と言った方が良いが、江戸時代の人々は運動不足にはならず、肥満にもならず、生活習慣病にも罹らなかった²⁵⁾。

では、江戸時代の人々はどの程度の運動量であったのだろうか。その一例として、本報告において円

空の場合を取り上げた。その結果、最も多く年間に歩いた距離は1,557.1 km/年であった。これを月当たり歩いた距離で表すと、129.758 km/月となり、また1日当たりの歩いた距離で表すと4.325 km/日となる。1歩の歩幅を0.7mとして歩数に換算すると、6,178 歩/日となる。この歩数値はそれほど多い歩数とは言えない。しかしこの歩数値は、行脚した距離のみの歩数である。日常生活をしていくために必要な歩く歩数は入っていない。波多野¹⁹⁾によれば、在宅し家に居るだけで、約3,000 歩/日は数えるだろうとしているから、その歩数を加算すると、6,178 歩/日+3,000 歩/日=9,178 歩/日となる。すなわち、ヒトが必要とされる1日の歩数¹⁾²⁾¹⁹⁾である1万歩に近づいてくる。大島⁴²⁾は「歩くことは健康法の王さまだ」として、歩くことを推奨している。以上のことから、推察すると、円空はほぼ健康に必要な運動量を確保していたものと思われる。

2009年(平成21年)渡邊⁶⁰⁾は、江戸時代の僧侶であった白隠和尚の行脚歩行距離を報告している。それによれば、最も多い歩行距離は26歳時の932.9 km/年、次いで67歳時の847.9 km/年であった。白隠和尚のこれら歩いた距離は、円空の歩行距離に比べてやや少ない値であった。渡邊⁶⁰⁾がウォーキングの勧めとその目安は、「週に3回、1回4 kmの距離を1時間ウォーキングしよう」とし、それを年間の歩行距離で表すと576 km/年であるとした。本報告で得られたように、円空が歩いた距離は1,557.1 km/年であったのは、渡邊⁶⁰⁾のウォーキング推奨目安を大きく上回るものであったと言えよう。

参考文献

- 1) 阿久津邦男：歩く健康法―若さを保つ1万歩―、女子栄養大学出版部、1976. 4.
- 2) 福永哲夫：ヘルシー・ウォーキング 歩く健康法、女子栄養大学出版部、1987. 12.
- 3) 五来 重、後藤英夫：円空仏 境涯と作品、淡交社、1968. 6.
- 4) 五来 重：円空の遊行と美並村、美並村教育委員会編集 美並村史 通史編 下巻、956-996、1984. 2.
- 5) 後藤英夫、江原順：円空・人と作品、三彩社、1961. 3.
- 6) 後藤英夫、長谷川公茂、三山 進：円空巡礼、新潮社、

1986. 11.
- 7) 長谷川公茂：年号の入った背銘仏、円空学会編 円空研究 1、12-23、1972. 6.
- 8) 長谷川公茂：愛知県の円空仏―円空の生涯―、郷土出版社、138-165、1990. 12.
- 9) 長谷川公茂：円空の生涯、朝日新聞文化企画部、円空慈悲と魂の芸術展、209-221、1994. 9.
- 10) 長谷川公茂：高賀神社と円空、円空学会編 円空研究 5、86-92、2004. 10.
- 11) 長谷川公茂：円空と滋賀県、円空学会編 円空研究 6 別巻 1、84-90、2004. 11.
- 12) 長谷川公茂：遍年円空仏解説、円空学会編 円空研究 7 別巻 2、82、2005. 1.
- 13) 長谷川公茂：遍年円空仏解説、円空学会編 円空研究 7 別巻 2、87-90、2005. 1.
- 14) 長谷川公茂：遍年円空仏解説、円空学会編 円空研究 7 別巻 2、91-94、2005. 1.
- 15) 長谷川公茂：円空年表試案、円空学会編 円空研究 7 別巻 2、153-156、2005. 1.
- 16) 長谷川公茂：報恩寺の円空仏、円空学会編 円空研究 23、21-25、2005. 7.
- 17) 長谷川公茂：円空の関東巡錫の期間、円空学会編 円空研究 24、20-26、2006. 7.
- 18) 長谷川公茂：円空歌集の一片考、円空学会編 円空研究 25、26-32、2008. 7.
- 19) 波多野義郎：健康ウォーキングの科学、不昧堂出版、2008. 3.
- 20) 池田勇次：怨嗟する円空―微笑円空佛への疑問と円空業病説の深層―、牧野出版、1994. 4.
- 21) 池田勇次：円空の宗教的背景について、円空学会編 円空研究 17、30-38、1996. 6.
- 22) 池田勇次：第5編円空編 第1章美並村と円空、美並村教育委員会編集 美並村史 通史編 下巻、801-955、1984. 3.
- 23) 池之端甚衛：飛驒の円空、円空学会編 円空研究 17、39-48、1996. 6.
- 24) 池之端甚衛：飛驒と円空―『飛州誌』は語る―、惜水社、2009. 8.
- 25) 石川英輔：大江戸省エネ事情、講談社文庫、2009. 10.
- 26) 上之保村教育委員会、上之保村文化財審議委員会：上之保の円空仏、上之保村、1995. 3.
- 27) 小島梯次：尾張の円空仏概観、円空学会編 円空研究 3、69-77、1977. 9.
- 28) 小島梯次：二愛知県の円空仏、長谷川公茂 編/写真愛知県の円空仏、郷土出版社、166-196、1990. 12.

- 29) 小島梯次：宮川村の円空、円空学会編 円空研究4、72-76、2004. 9.
- 30) 小島梯次：遍年円空仏解説、円空学会編 円空研究6 別巻2、90-91、2005. 1.
- 31) 小島梯次：円空仏の背面梵字による造像年推定試論、円空学会編 円空研究6 別巻2、141-149、2005. 1.
- 32) 小島梯次：円空・木喰展「庶民の信仰」の系譜 円空の作品と生涯、株式会社 アートワン、178-195、2009.
- 33) 小竹隆夫：南飛驒の円空佛、益田郡萩原町、1981. 7.
- 34) 丸山尚一：円空風土記、里文出版、1994. 9.
- 35) 松村 隆：写真集北海道の円空仏、江差フォトクラブ編集 代表松村 隆 みやま書房、130-132、1978. 6.
- 36) 松瀬亮吉：木曾路の円空仏、円空学会編 円空研究6 別巻1、91-92、2004. 11.
- 37) 美並ふるさと館・生活資料館：美並ふるさと館（パンフレット）、郡上市美並町高砂.
- 38) 美並村：岐阜県美並村が語る 円空の原像、惜水社、2003. 3.
- 39) 名古屋市文化財調査保存委員会：文化財叢書第30号 円空と名古屋、名古屋市経済局貿易観光課、1962. 5.
- 40) NHK「美の壺」制作班：円空と木喰、日本放送出版協会、2007. 9.
- 41) 丹羽一彦：匠の旅人、風琳堂、1991. 5.
- 42) 大島 清：PHP 文庫 歩くとなぜいいか？、PHP 研究所、2007. 5.
- 43) 佐藤 武：円空仏にみる性的表現について、円空学会編 円空研究4、110-114、2004. 9.
- 44) 佐藤 武：遍年円空仏解説、円空学会編 円空研究6 別巻2、87、2005. 1.
- 45) 佐藤 武：円空の十一面観音について、円空学会編 円空研究6 別巻2、123-133、2005. 1.
- 46) 祖田浩一：円空入定、講談社、1981. 3.
- 47) 高松茂夫：錦山神社の円空仏、円空学会編 円空研究4、86-87、2004. 9.
- 48) 棚橋一見：荒子観音、円空学会編 円空研究1、56-69、1972. 6.
- 49) 棚橋一見：奇僧円空、人間の科学社、1974. 3.
- 50) 棚橋一見：異端の佛たち、芸立出版、1977. 5.
- 51) 棚橋一見：円空の芸術、東海大学文化選書、1979. 6.
- 52) 棚橋一見：見えざる彫刻、円空学会編 円空研究4、90-93、2004. 9.
- 53) 谷口順三：飛驒の円空仏、円空学会編 円空研究4、49-54、2004. 9.
- 54) 富野治彦：円空を旅する、産経新聞ニュースサービス、2005. 4.
- 55) 土屋常義：円空の彫刻、造形社、1961. 3.
- 56) 上田豊蔵：上宝村と円空、円空学会編 円空研究4、77-81、2004. 9.
- 57) 梅原 猛：梅原 猛の円空巡礼、芸術新潮、2004. 9.
- 58) 梅原 猛：歓喜する円空、新潮社、2006. 10.
- 59) 若原高義：円空の即身成仏修行・入定について、円空学会編 円空研究25、52-61、2008. 7.
- 60) 渡邊義行：江戸時代僧侶の行脚距離に関する研究—白隠和尚が歩いた距離—、教育医学54(3)、213-227、2009. 2.
- 61) 渡邊義行：円空が歩いた距離の推測—岐阜県郡上市美並町の場合—、中部大学現代教育学部紀要3、99-110、2011.

受付日 2011年9月30日

受理日 2011年11月17日

Abstract

The distance walked by Enku, a traveling monk, when he traveled through the Hida region in Gifu prefecture was estimated. Enku visited the Hida region in Gifu prefecture a total of ten times over the seventeen-year period from 1676 to 1692. Enku was forty-seven (47) years old when he began traveling to this region, and he was sixty-one (61) years old when he visited to the region for the last time. In other words, Enku spent his later years in the Hida region.

Enku walked most in the region when he visited Hida for the seventh time. This occurred in 1689, when Enku was fifty-eight (58) years old. In that year Enku walked a total of 1,557.1 kilometers. This annual walking distance (amount of exercise) was enough to keep a person healthy and fit.

[Keywords] Enku, distance walked, walking, Hida region in Gifu prefecture